

2023年6月度 中部品質工学研究会 議事録

- 開催日時 2023/6/3 (土) 10:00~17:00
- 開催場所 中部品質管理協会 研修室&Teamsを用いてのリモート(ハイブリット)
- 会員参加者<敬称略> S: オンサイト出席・L: オンライン出席、欠: 欠席、書: 書記、休: 休会

大見	S	牧野	L	横尾	S	城越	L	合田	S	伊藤	S	舟山	S	出島	S
福田	L	水田	S	山中	L	山口(展)	L	黒田	S	鈴木	S	池田	S	三浦	L
山口(直)	書	北村専務	S												
小西	休	中山	休	李	休	河合	休	則尾	休	杉浦	休	古谷	休		

4. 研究会内容

1) 輪講: 貞松 伊鶴(2023).1因子実験のすすめ 品質工学学会誌, No.2, 153-155.

(メイン舟山、サポート合田)

品質工学にて直交表を使う意味を整理し論文内容との比較を実施した。
また同時に、筆者の本論の主旨と予想される、直交表実験の再現性問題への挑戦について議論を行った。

2) 「L16直交表とボックスウィルソン」(牧野)

現役時代当時の、L16直交表とボックスウィルソン法を使用して、スポンジテープの実験の成功事例に関して、報告した。スポンジテープの構造と、当時の不具合2件を、L16直交表で分離。1件は、改善で対策した結果を報告。スポンジテープの剥がれに関しては、ボックスウィルソンを使用して改善した結果について報告した。

3) 森輝雄先生講演振り返り(山口)

23年5月度の研究会で実施した森輝雄先生の講演会に関し、振り返り検討会を行った。

【意見】

- カンファレンス行列を活用した事例をさらに積み上げて検証する必要があるのではないか。今の状態では使う気になれない。
- 「62%問題」は本当に問題か? 利得の再現性がないことは問題であるが、SN比の絶対値を議論する必要があるのか疑問。また、最適条件を選定する際、感度やコストを優先し敢えてSN比を犠牲にすることもある。
- [a,b] 解析は理解できる。今後の研究成果を期待する。

4) 第31回RQES発表内容検討(山中、牧野、池田)

以下、3件の発表内容に関してレビューを行った。

1. 「持続可能な発展はまず工場のムダ削減から」(山中)

当日発表の予行演習を行った。発表内容は、生産シミュレータ開発の事例である。そのシミュレータの予測精度を高めるために、品質工学の考え方とSN比を応用した。結果として、 L_{108} 直交表組実験のPDCAサイクルを回しつつ自動でSN比を向上させる合わせ込みエンジンを開発でき、思惑通りに予測の精度を高めることができた。

2. 「T法の貢献度に関する表の検討 Part II」(牧野)

T法の未知データに関する貢献度に関する直交表3種類(2n系、ベイリー型、ウィリアムソン型)を比較した結果について、品質工学研究発表大会に報告する内容について、報告した。直交表3種類とも、割付する個数が減少すると交互作用が現れる。対策としては、3種類の直交表を活用して、空き列が、少なくなるように、3種類を効率良く使用する方法を提案した。

3. 「特徴量項目数>サンプル数の条件におけるT法の注意点」(池田)

(レビュー内容は割愛する)

5) 事務局連絡(決算報告、合宿計画連絡12月2日予定など(山口直さん))

・(有)ITEQ伊藤社長より22年度の決算報告があった。

・合宿検討会を計画中

日時：23年12月3日(土)10:00~4日(日)12:00

場所：すいとびあ江南

参加計画人数：研究会メンバー+北村専務理事(18名)、招聘講師(2名)計20名

・次回案内

日時：2023年7月1日(土)10:00~17:00

場所：中部管理協会 研修室

・7/1(土)研究会終了後、2022年品質工学研究発表大会の実行委員長賞受賞の祝賀パーティを行います。皆さん奮ってご参加ください。場所、費用は未定